



テクノロジーの 進歩と在宅医療

先日、胃瘻（いろう）

カテーテルを留置している女性患者がカテーテル留置付近を痛がっていました。胃瘻とは栄養を口から取ることが難しい方が、体表からお腹側の胃壁までの道、瘻孔を手術で作り、そこにカテー

テルを抜こうとしたのですが、必要なデバイスと無事にカテーテルが引き抜け、患者さんがお腹の痛みがなくなったと言ってくれた時には私もほっと胸を撫で下ろしました。その後は新しいカテーテルを入れ直し、

ルを留置をし、そこから栄養を入れる方法です。通常はトラブルが起きることはないのですが、何かしらの原因で瘻孔からカテーテルが飛び出し、状況の説明したところ、そこに栄養を入れしてしまった場合、お腹の中にある本来は無菌の腹膜に散らばってしま

って腹膜炎を起こすことがあります。注意を要しました。胃瘻カテーテルを抜こうとしたのですが、必要なデバイスと無事にカテーテルが引き抜け、患者さんがお腹の痛みがなくなったと言ってくれた時には私もほっと胸を撫で下ろしました。その後は新しいカテーテルを入れ直し、

スを使用してもヒクリとせず、患者さんは大変お腹を痛がっていました。最近では遠隔で5G回線を使用しているロボット手術を行うことも考えられています。このようなテクノロジーの進歩の中で、高齢社会になり、病院通院が困難になる方は増えることが予想されます。

ここで在宅医療では、改めて指導を受けながら、自宅でも医療の質を保つことが大切であると改めて思いました。



松原 清二 医師

在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症専門医
・認知症サポート医

【まつばらホームクリニック】
☎042-439-1250
西東京市東町 4-14-18-2F
(訪問中のため不在が多い)
■電話対応：午前9:00～午後6:00
■定休日：土日(祝日は診療)
■訪問地域：西東京市、東久留米、新座、練馬の一部

まつばらホームクリニック 検索